

- 1949年 水俣市袋、湯堂に生まれ、袋小学校、袋中学校を卒業。
- 1964年 熊本市内の高校に入学。
- 1967年 鹿児島大学入学。
- 1969年 学園祭で水俣病問題の講演会を開催。
- 1971年 鹿児島の国立重症心身障がい児施設に入職。
- 1973年 第一次水俣病訴訟判決時、熊本地裁に向かうも勝訴判決集会に間に合わず。
- 1974年 結婚と共に神奈川県移住。
- 1975年 同県厚木市の県立総合リハビリテーションセンターに入職、主に障がい児関連の業務に携わる。
- 1996年 水俣・東京展を訪れるが早々に退場。
- 2002年 早期退職。
- 2012年 誘われ水俣フォーラム主催の水俣病記念講演会に参加、衝撃を受ける。以後、水俣病大学など水俣フォーラムの催しに続けて参加。
- 2013年 水俣フォーラムでボランティア活動開始。
- 2015年 水俣フォーラム理事に就任。
- 2017年 季刊『道標』に自身と家族の水俣病事件について初めて寄稿。
- 2019年 水俣フォーラム主催の水俣病大学で自身と家族の水俣病事件について初めて講話。

- 父 1920 年生まれ、20 代後半でチッソ入職、55 才の定年まで三交代勤務に従事。退職後、ミカン栽培、84 才で死亡する前年まで無農薬ミカン栽培。岡本達明さんの「水俣病の民衆史」の基礎データとなった村人への聞き取り調査を支援。湯堂や、出月地区に入った支援者と交流。
- 母 1919 年生まれ、1951 年頃、村店を開き、市内にスーパーができた後も細々と 70 代まで営業。水俣病が伝染病を疑われていた頃、感染を予防するため、患者さんやその家族から代金を手で受け取らないようにし、熱湯消毒など実施。95 年政治決着で医療給付の対象者に。支援者と交流。88 才没。
- 祖父 1896 年生まれ、一本釣り漁師。ぼら、太刀魚釣りなど。政府による水俣病公害認定の 2 年後 64 才で肺ガンにて死亡。
- 祖母 1898 年生まれ、主に畑仕事、湯堂の海岸でのびな拾い、カキ打ちが大の楽しみ。1975 年水俣病患者認定。72 才没。